優秀賞

交通事故を０にするために

大刀洗町立大刀洗中学校　２年　髙宮　蒼羽

最近、自動車や自転車の事故が多発している。特に、ゴールデンウィークは、出かけたり、帰省ラッシュで事故が増えるだろう。

先日、通学途中の小学生が青信号で横断中に車にはねられるというニュースを見た。その運転手は、赤信号に気付かなかったということだ。ルールを守って横断歩道を渡っていても、自動車が信号を無視して突っこんできたら、よけることはできず、尊い命がうばわれることになってしまう。熊本でも、トラックやミニバイク、子ども園の送迎バスなど五台が衝突し、二人が死亡、七人が負傷した事故が起きた。トラックを運転していた方が『内因性心疾患』による病死である可能性があるということを知った。交通ルールを守っていても、突然発作を起こしてハンドル操作を誤るということもある。又、高齢者の運転による事故も多い。

一瞬にして命が奪われ、遺族はとても納得いかないだろう。ずっと悲しみを抱えて生きていかなければならず、事故を起こした人のことを許すことができないだろう。

では、どうすれば事故を防ぐことができるのだろうか。

運転する人は、命の重さを知り、脇見運転やスピードの出しすぎ、飲酒運転をしないなど交通ルールを守ること、長時間運転する時は、適度に休憩を入れるなど、一人一人が意識する必要がある。自動車に限らず、自転車でも同じことが言える。私は、毎日自転車で通学しているが、「危ない」と感じたことが数回あった。自転車も自動車とぶつかることもあれば、歩行者をはねてしまう可能性もある。そのことを知り、私はハッとした。運転に集中せず、他のことを考えていたこともあったからだ。ルールは守っているつもりだが、自転車の運転も自動車の運転もほぼ同じだという意識が足りなかった。今後は、そのことをしっかり頭に入れて自転車を運転しようと思う。そのためにも、もし意識していなかったら、自分を叱ろうと思う。人の人生を壊さないためにも。そして、自分のためにも。